



Smiling faces of miyakonojo

「受容」し「共感」する

東京2020オリンピック聖火リレー 聖火ランナー
小野 智弘さん

特別支援教育の道を駆ける

今年4月25日・26日に県内を駆け巡った東京2020オリンピック聖火リレー。ランナーの1人として聖火をつないだのが小野智弘さんです。現在三股中学校で教壇に立つ小野さんは、教育者として最初の勤務先である県立児湯養護学校（現・児湯るびなす支援学校）から特別支援教育に携わりました。

子どもたちと接するとき、本人に合った支援の工夫を心掛けるようにしている小野さん。「五十市中学校勤務時代に人権教育を担当し、学習したアサーティブネス（自他を尊重した自己表現）の精神を意識するようになっている」と語ります。この考え方は、「相手の考えを受け入れる」「自分の意見も相手に伝える」が根底に流れていて、小野さんの教育理念になっています。

地域とともに生きる

転勤もあるため、高速道路も近く利便性もよい山之口に居を構える小野さん。「子どもたちの元気いっぱいのあいさつや笑顔あふれる山之口は、住みよい街」とにこやかに話します。

小野さんは、花木地区八坂神社夏祭りのみこしの責任者を務めながら、街区第4自治公民館の役員を兼務。地域の伝統文化を子どもたちに伝えるとともに、高齢者が多い公民館の活動を支えています。

平成29年、街区第4の市営住宅が、建替計画により移転することになり、その際、行政と地域との橋渡し役を果たしました。地域住民から分からないことなどを聞かれることも多



花木地区八坂神社夏祭り子どもみこしの様子

かったと語る小野さん。新築の市営住宅では新しく共益費が発生し、今までの公民館との関係を整理。新しい街区第4自治公民館がスタートしました。「不安を抱えた住民が安心して生活できるようになり、これから新しく若い世帯も入居してにぎやかなになるのではないか」とほっとした表情を浮かべます。

地域の希望になれば

地域の活気や希望につながればとの思いを胸に、聖火ランナーに応募した小野さん。「選定の連絡を受けたときは、本当にうれしかった」と話します。実際に走ってみて、コロ



教壇に立つ小野さん

ナ禍で複雑な思いがあったが「沿道からの声援や笑顔に力をもらい、これからも頑張ろうと気持ちが高揚した」と目を潤ませていました。

違いを認め合う心を胸に 思いを伝えていく

特別支援教育の第一線を走り続け、地域活動にも積極的な小野さん。今後は「地域や職場で自分が培ったことを若い人たちに伝えていきたい。そして、さまざまな立場の人が、お互いを受容しながら、自分の力を発揮できる共生社会の実現に向けて支援していきたい」と希望の灯をつないでいく決意を語ってくれました。

教育と地域の 現場を駆ける



人の
風景
*Smiling faces of
miyakonojo*

Photo by Tokyo 2020